

写真：茨城県笠間の石切山脈

第34回BMW技術全国交流会に向けて 茨城県の岩石調査と学習会を開催

全国交流会への道3

9月19日（金）、第34回BMW技術全国交流会の開催に向けて、岩石調査と学習会、実行委員会が開催されました。岩石調査と学習会は奥地拓生氏（京都大学教授・BMW技術協会技術顧問）を講師に迎え、茨城県、涸沼川流域の花崗岩とその他の岩石について学びました。

◎岩石調査

「フィールドワークの岩石調査には清水裕一実行委員長を始め10名が参加しました」

朝8時にパルスシステム茨城栃木を出発し、「あたご天狗の森公園（茨城県笠間市）」へ向かいました。あたご天狗の森公園は涸沼や霞ヶ浦など、関東平野が一望できる愛宕山にある公園です。ここでは講師の奥地先生から、涸沼川流域にある岩石の種類と関東ローム層についての説明が行なわれました。

「涸沼川の水源は筑波山系の花崗

岩の山。約6千年前にできたもの。そのすぐ下には1億年前の石灰岩や変成岩があり、ミネラルが花崗岩を基に多様な岩石から供給される恵まれた土地と言っても良い。さらに関東ローム層は、約13万年前から1万年前、現在に至るまで、富士山や浅間山（長野県）などの火山活動によって、火山灰が保水性と透水性に優れた赤土となり、関東平野の台地を肥沃な大地にしている。」

次に山を下り、石岡市の県道から筑波山から連なる筑波山系の山並みを見ました。清水実行委員長は、「この辺りは関東の鮎米の産地として有名で、それはこの花崗岩の山並みから湧き出る水の良さにあると再認識しました。」と話されました。

次に笠間市の石切山脈を訪れました。石切山脈は花崗岩（稲田石）の採石場の一部が公園となっていて、山の断面が花崗岩であるということを実感できます。この花崗

岩は石材としての需要が高く、全国でも有名です。

約6千年前に作られた、地球でも新しい花崗岩と言われています。花崗岩に直接生える苔（地衣類バクテリア）、木々を観察し、根から有機酸を出して岩石のミネラルを植物が吸収している様を確認しました。

最後に涸沼川流域を下って、茨城町の涸沼にある涸沼水鳥・湿地センターと涸沼生態系再生プロジェクトの実験場に到着しました。涸沼水鳥・湿地センターでは、ラムサール条約登録湿地（注釈①）の涸沼の歴史、汽水湖の環境や生態系について紹介する展示を見学し、涸沼への理解を深めました。

ひめま生態系再生プロジェクト（注釈②）の実験場は、2012年から茨城BMの先代、（故）清水澄さんを中心に涸沼の浄化のために始められました。涸沼のヘド口を浄化するために、環境に適した水草の選定や繁殖などを行なっています。

あたご天狗の森公園から望む関東平野

茨城県の主峰、筑波山

稲田石の石切山脈にて

花崗岩に含まれている鉱物を観察



ラムサール条約登録湿地「酒沼」



ひめま生態系再生プロジェクトの実験場

なお、第34回BMW技術全国交流会の

オプション視察では、酒沼がCコース、石切山脈がDコースに入っています。是非、視察へのご参加もお待ちしています。

【注釈①】1971年にイランのラムサールで開催された、「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された。この条約は水辺環境（湿地や動植物）の保全を目的としており、開催地にちなみ、「ラムサール条約」と呼ばれている。酒沼は様々な登録条件をクリアし2015年に登録された。

【注釈②】1991年、茨城BM前代表の清水澄氏（故人）が仲間と共に酒沼の環境保全を目的とした、「茨城町水と自然を守る会」を設立。その後、それまでの活動を広げ、酒沼の豊かな自然環境を取り戻すための調査・研究・実験を行なうプロジェクト団体として、2012年に「NPO法人ひめま生態系再生プロジェクト」が設立された。

◎学習会

「筑波山系から酒沼流域の岩石」

岩石調査を終え午後から、茨城県水戸市の茨城県労働福祉会館の会議室にて学習会が開催され、21名が参加しました。講師は引き続き奥地拓生先生です。

【学習会要点】

- ・茨城県の酒沼川は、花崗岩の山を水源にミネラル豊富な水が流域を潤している。
- ・花崗岩の他にも、石灰岩や変成岩、さらには関東ローム層の恵みを受け、農業地域として振興してきた恵まれた地域と言える。
- ・今の酒沼は様々な環境汚染が重なったこともあり浄化が必要とのことだが、酒沼川などの水が流れ込む限り、生態系を再生させることは不可能ではなく、むしろ時間が必要だが可能ではないか。
- ・植物は岩石からミネラルを取り出すことで、地上で生きることができるようになった。そしてこの作用が土壌を形成し現在に至っている。

【第34回BMW技術全国交流会 開催案内】

「笑顔と絆が続く未来を求めて」

～身近な環境を見つめ、持続可能な「食」「農」「くらし」を切り開こう～

■ 開催日時

11月11日（火）13時30分～17時30分

11月12日（水）9時00分～12時30分

※12時45分～オプション視察

■ 開催場所『ホテル クリスタルパレス』

住所：茨城県ひたちなか市大平1丁目22-1

■ 全国交流会のスケジュール

◎一日目 11月11日（火）

- ・「基調報告」 BMW技術協会 理事長 伊藤幸蔵
- ・「基調講演①」 京都大学 教授 奥地拓生
- ・「基調講演②」 川田研究所 代表取締役 川田肇（予定）
- ・「開催地 基調講演」 茨城BM 代表取締役 清水裕一
- ・懇親会

◎二日目 11月12日（水）

茨城BM、パルシステム茨城 栃木、糸島BM農法研究会（福岡）などによる、BMW技術活用事例報告、実験報告など、6～7つの発表を予定しています。

◎視察コース

「Aコース」

- ・清水牧場の堆肥場、BMプラント

「Bコース」

- ・茨城BM生産者の圃場、清水牧場の堆肥場、BMプラント

「Cコース」

- ・ラムサール条約登録湿地「酒沼」にてひめま生態系再生プロジェクトの取り組み、清水牧場の堆肥場、BMプラント

「Dコース」

- ・ささぬま33ファーム、笠間市の花崗岩の石切場、偕楽園と徳川ミュージアム

※視察全コースは2日目の交流会終了後、バスで出発します。

※全コース、昼食はお弁当を車中で取っていただきます。

※帰りはJR水戸駅、ホテルクリスタルパレスで下車です。

■ 参加費

（1）全国交流会の参加費

交流会参加費 8,000円（1日のみの参加でも同額）

懇親会費 8,500円

宿泊（朝食付）10,000円（相部屋）

13,000円（シングル 限定44部屋）

（2）視察コース

「Aコース」 6,000円

「Bコース」 6,500円

「Cコース」 6,500円

* 弁当代・防疫対策費（防護服・靴カバー等）を含む

「Dコース」 7,500円

* 弁当代・徳川ミュージアム入場料を含む

■ 参加申込方法と参加費について

- ・開催案内を8月初旬に会員の皆様に郵送、一部の会員の皆様にはメールでもお届けしました。

- ・開催案内をご一読いただき、同封されている専用の参加申込書に記載の上、実行委員会事務局（BMW技術協会事務局）へFAXまたはメールにてお申し込み下さい。

- ・第2次の参加申込みの締切りは、10月14日（火）です。

- ・参加費は参加申込み後に指定の口座へお振り込み下さい。

- ・ご不明な点は、BMW技術協会事務局へご連絡下さい。

・全国交流会では、今回の岩石調査と茨城県の花崗岩を軸に話しの幅を広げ、BMW技術のBは微生物(バクテリア)、Mは鉱物(ミネラル)、Wは水(ウォーター)、これらがどのようなものか知ることを通して、B・M・Wの理解をより深め、46億年の昔から現在までの地球の長い時間の営みの中で、それぞれが経てきた歴史、地球誕生からの軌跡を解説する。

◎実行委員会(第3回目)

第34回BMW技術全国交流会実行委員会が開催され20名が参加しました。今回は7月の開催に続き、第3回目です。

11月11日(火)と12日(水)の開催に向け、2日間の交流会、懇親会、視察4コースの内容とスケジュールの詳細について、細かく確認と調整を行いました。また、運営に関わる役割分担を決め、実行委員全員が何かしらの役割を担うこ

とが決まり、全国交流会の開催に向けて大詰めを迎えてきたことを実行委員会一同で実感しました。今後は実行委員会メンバーによる発表の内容を詰めて行く作業や、視察先の現地確認などを行なっていくことを確認しました。

なお、次回の実行委員会は10月27日(月)に、全国交流会の会場となる茨城県ひたちなか市のホテルクリスタルパレスで開催を予定しています。

◎全国交流会の参加について

第34回BMW技術全国交流会は、申込み期日を延長して参加募集をしています。ぜひ多くの皆様にご参加いただきま



上記のQRコードより、全国交流会の開催案内と参加申込書をダウンロードできます。

(報告：BMW技術協会事務局 秋山澄兄)



学習会 奥地先生による講義



第3回目となる実行委員会

新潟BMW自然塾『第11回総会・第15回学習会』報告

8月19日(火)、新潟県阿賀野市のJA新潟かがやきささかみ支店で、新潟BMW自然塾の第11回総会と第15回学習会が開催されました。

◎第11回総会

出席者は10名、【第1号議案】2024年度の活動・会計報告の承認、【第2号議案】2025年度の活動計画・予算(案)の承認、【第3号議案】役員・会計監事、事務局の選任の3つの議案が提案され、全会一致ですべて承認されました。共同代表は、謙信の郷の峯村正文さんと、夢の谷ファームの石塚美津夫さんがこれまでに引続き選任されました。

◎第15回学習会

参加者は、謙信の郷、夢の谷ファーム、JA新潟かがやき、阿賀野市ゆうきセンター、ささかみ米産直部会、パルシステム新潟ときめきから14名が参加、さらに

今回はみやぎBMW技術協会・あいこープ農法研究会からも6名の参加があり、総勢20名となりました。

はじめに、参加者全員が自己紹介、各団体から近況報告が行なわれました。今年も酷暑に干ばつなどが続き、米の生育が心配される声が多く上がりました。・笹神地域は酷暑が酷かったものの、一部の地域を除いては水が切れることが無かったのが幸い。

・上越地域は水が全く足りていない。稲が枯れる圃場も出ているが8月頭の大雨で何とか生き延びることができた。

「俺の稲」

新潟BMW恒例の俺の稲、酷暑に日照りが続き、水が足らず本当にギリギリのラインで育った稲、持ち寄った自慢の稲株を、今年の栽培ポイントや狙いを説明し、それを元にした技術交流が行なわれまし



俺の稲(出穂した稲が並べられました)



謙信の郷 峯村正文さん



ささかみ米産直部会 青木等さん



稲を発表する江口聡さんと稲穂の長さを測る石塚美津夫さん

みやぎ BM 技術協会・あいコープ農法研究会による謙信の郷（新潟）視察研修報告

た。自慢の稲には栽培する人の個性がでており、毎年盛り上がりがあります。

また、今年から有機栽培を始めたという79歳の音田春男さん（ささかみ米産直部会）。79歳で新たなチャレンジをされる音田さん、そしてそのチャレンジができる農業の素晴らしさを参加者全員が実感しました。

現地視察

地元の笹岡小学校ではオーガニック給食の取り組みの一環で、生徒自ら給食の食材を学年ごとに栽培しています。ミニトマト、茄子、サツマイモなど、石塚さんの指導の下に有機栽培で野菜を育てています。

次に夢の谷ファームでは、昨年導入したBMW生物活性水プラント。原料はボカシ



ささかみ米産直部会
音田春男さん



謙信の郷
峰村正文さん

堆肥とトイレの排水、そして山水。その他に、有機栽培の田んぼ、棚田、糸蚯蚓神社などを視察しました。（報告…新潟 BM 自然塾事務局）

8月20日（水）、新潟県上越市のBM自然塾・謙信の郷で視察研修を行ないました。あいコープ農法研究会では毎年、視察を行なっており、今年は昨年の茨城BMに引き続き、BMW技術協会会員の謙信の郷を視察させていただきました。

◎ 峰村農園

峰村農園は息子（婿）の峰村幸人さんがすでに代表を継承されています。案内していただいたのは、新潟BM自然塾の共同代表でもある峰村正文さんです。（峰村農園の詳細は6〜7PのBMの人々をご覧ください）

はじめに、有機栽培の田んぼを視察、出穂した稲の状態や除草方法について、お話しを聞かせていただきました。次に峰村農園の生物活性水プラントと堆肥場へ。生物活性水プラントは1槽が200ℓのタンクが4本、有機物抽出槽（200ℓ）と貯留槽（1000ℓ）です。峰村



峰村さんの田んぼにて



金谷さんの田んぼにて



上越市三和区神田の谷地



公民館での技術交流会

さんはプラントについて、「プラントの規模が小さいので管理はこまめに行なっている。貯留槽を大きくすることで、一度に沢山の生物活性水を使用することができると話されていました。堆肥場はもみ殻、米糠、山土が原料で、生物活性水を原液で水分調整に使用しています。原料はすべて自前で調達できるもので、良質な堆肥を作るために日々勉強とのことでした。

◎ 金谷農園・富永農園

金谷農園は全体で14haの米を栽培、富永農園は全体で18haの米を栽培しています。金谷武志さん（BMW技術協会若手幹事会座長）、富永暁さん、福原弥さんに案内していただきました。

こちらでは有機栽培の田んぼと合鴨（アヒル）農法の有機栽培の田んぼを視察しました。施肥、田植え、除草のタイミングや方法など、有機栽培ならではの専門

的な話しが尽きませんでした。

視察の最後に、「谷地（やち）」と呼ばれる、低湿地へ案内していただきました。ここは深さ2m弱の湿地で水芭蕉、ミツガシワなどの貴重な植物や希少な昆虫類が生息しています。特にトンボの種類が多く、この日も珍しい「チョウトンボ」がたくさん飛んでいました。金谷さんは、「この谷地のような環境、生態系を守るためにも有機栽培をすることが大切と考えている」とのことでした。

◎ 謙信の郷との技術交流

金谷農園のある神田集落の公民館で交流会を行ないました。

交流会では、代表の金谷さんから謙信の郷の概要についての説明が行なわれ、今年の作柄や米の価格とその対応について、栽培に関する事など、予定時間をオーバーして技術交流が行なわれました。（報告…みやぎBM技術協会 西塚忠樹）



静岡県と大分県で
BMWプラントの
設置工事が始まり
ました。

◎清水養鶏場（静岡県静岡市）

8月26日（火）～28日（木）に、静岡県静岡市の清水養鶏場にて、BMW生物活性水プラントと飲水改善プラントの設置工事を行いました。

清水養鶏場は育雛からの一貫経営で、飼養羽数は成鶏約1万5千羽、育成約4千羽の採卵鶏の養鶏場です。

飼料は、非遺伝子組み換え＋収穫後に農薬散布をしていないトウモロコシ、飼料米、国産の魚粉、牡蠣殻、海草などを養鶏場の工場で季節に合わせて配合しており、清水養鶏場のブランド卵「美黄卵」は、全量自社の直売所や近隣で販売され、静岡県の優良な農産物として「しずおか食レクシオン」にも認定されています。



清水養鶏場の清水さん
生物活性水プラントの前にて

もともとBMW技術に似た仕組みで飲水改善などを行っていましたが、同じ静岡県静岡市の村上園・村上倫久さんに相談があり、今回新たにBMW技術の導入を行うこととなりました。

工事には、清水養鶏場の清水茂取締役と村上園の村上真也さんに立ち会いとお手伝いいただきました。

飲水改善プラントは、飲水貯蔵用のホロータンク約9tのタンク2槽を清掃し、新たにばっ気用の散気管の設置と配管を行い、内部に軽石や花崗岩を吊り下げ、1槽目のタンクにリアクターシステムを設置しました。

生物活性水プラントは、既に設置してあった液肥づくり用の約1.5tのホロータンク4槽を清掃・補修し、新たにばっ気用の散気管の設置と配管を行い、各槽に軽石と花崗岩を吊り下げ、1槽目にリアクターシステムを設置しました。

また、生物活性水の原料となる堆肥の有機物抽出用の200ℓのローリータンクを設置し、BMW活性堆肥を原料に培養調整を始めました。

培養調整は、夏場の高温期で微生物の働きも活発なため、1週間に1槽ずつ水を貯め、培養を進めてきています。10月の上旬には、亜硝酸態窒素と大腸菌の測定を行い、培養を完了する予定です。

完成した生物活性水は、各鶏舎ごとにポリタンクで20ℓずつ運び、飲水に希釈混入する予定ですが、今後は給水配管に直接希釈混入できるようにする予定です。

（報告：匠集団そら 遠藤尚志）

◎耶馬溪ファーム（大分県中津市）

9月1日から大分県中津市の耶馬溪ファームでプラント工事が始まりまして。大分県中津市耶馬溪町、標高420mの山の中、搾乳牛1,000頭規模の新しい牧場「耶馬溪ファーム」が2026年6月の竣工に向けて建設が急ピッチで進んでいます。

グリーンコブの産直びん牛乳の製造のための生乳を供給する牧場です。この牧場にBMW技術が導入されます。それは、乳牛が飲む水をBMW技術を使って井戸水を改善する施設と、搾乳牛から生乳を絞る搾乳設備のミルクパーラーがある搾乳棟からの排水を処理する施設です。

飲水改善プラントは、一日の使用水量を搾乳牛1頭当たり飲水を100ℓ、その他の機器類の洗浄水80ℓ、合わせて180ℓ×1000頭＝180tを基本設計条件としてプラントの規模を決めていますので、土木槽は約200tが2槽（2日分）と自然石槽です。

また、排水処理プラントは、搾乳棟からの1日の排水量を最大30tで設計しており、原水槽、流量調整槽、曝気槽、沈殿槽、汚泥培養槽などから構成されており、排水の処理水は液肥として畑作に再利用すること、処理水を原料とした生物活性水を連続的に製造（日量2t）でできるように生物活性水プラントも連続して設置されます。

BMW技術畜産環境システムとして、BMW技術協会が監修し、設計と施工を匠集団そらが担当しており、ブローから各槽へエアを供給するメイン配管設備と水槽の中に設置する散気管を取り付ける最初の工事が始まりました。

これから来年6月の竣工に向け、スクリーン装置、ブローア、汚泥脱水機などの機械設備、電気設備、自然石の取り付け工事を順次行っていく予定です。機関紙AQUAでは、今後、耶馬溪ファームについての詳細や工事の進捗状況などを掲載していきます。

（報告：匠集団そら 星加浩二）



外側から見たBMプラント
高さは約3m（埋設部分除く）



配管前のBM生物活性水プラント

配管後のBM生物活性水プラント



謙信の郷（新潟）

峯村正文さん



もしておられました。社会学のテキストに「自殺論」を使うような先生で自分が社会に目を向ける方向を指し示してもらえた気がします。

『東畑精一・神谷慶治の論争。農業は作為の道である。また、百姓にとつて読書は何か』泣きながら読むもので、晴耕雨読ではない。どんなことをやっても経営が大切。家族経営ではなくいすれ法人化する時代が来る。』

内山先生の情熱的な講義の最高のテキストは「二宮翁夜話」でした。私にとつて終生の書物です。このころ、

仲間とクロボトキン・資本論などの読書会もしました。

また、東京経済大学の色川大吉先生のゼミを受けたりしました（もぐりの学生でしょう）。ちょうど五日市憲法草案を発見された時にゼミを受けていました。色川先生の日本の近代化の本は名著だと思います。

——農業者大学を卒業して就農されたのですか。

卒業して即就農しました。このころ、田んぼは2.8haで豚も飼っていました。

子豚で出荷するのですが、母豚10頭までになりました。田んぼを少しずつ増やして、5haくらいになった時に豚飼いをやめました。友達5人で、機械銀行で作業受託をする仕組みを作りました。稲刈り時期がズレるので、長野に刈り取りに行ったりもしました。

10年くらいこんなことをしていました。——BMW技術との出会いを教えてください。

安達生恒先生を通じて、米沢郷牧場の伊藤幸吉さんと知り合いました。あるとき伊藤幸吉さんから電話があり、「面白いことがあるから来ないか」と言われました。リムジン牧場に行き、BMWに出会ったのですが、最初は新興宗教かと思いました。当時の秋田理事長もおられました。

その時に紹介されたBMWの本を読んで、自分たちもやってみようということになり、タンクを作つて、良い土というところで神社の土を持つてきました。でもうまく行かないので、秋田さんに連絡して「なかなかうまく行かない」と言いました。

そうしたら秋田さんと椎名さんから、「神社の土では難しい、ちゃんとしたシステムとして作らないと難しい」と言われました。そして作ったのが井沢さんの農場のプラントです。星加さんに来てもらって仲間と一緒に作りました。

——謙信の郷について聞かせてください。

BMW技術に出会って数年して、お米を販売する会社が必要になり、謙信の郷を作りました。最初はパルシステムには

取材は6月にさせていただきました。峯村さんは、日本ミツバチを見せたくて待ち構えていた感じでした。ハチが分蜂するときに留まりやすい場所をどのように設置しておくのかを「こんな場所を用意しておく」のだと……。

峯村さんは、1949年2月生まれで76歳です。地元の大坂井小学校、大瀧（おぶけ）中学校に進みます。野球部のマネージャーをしました。

また、父親が映画好きだったので、そ

の影響か、映画大好き少年だったようです。本人は中学時代に「裸の島」を見てりして大人になった気がしていたという事です。地元の高田高校を出て、新設された農業者大学に進学（一期生）します。

——農業者大学で、峯村さんの生き方を変えるような恩師に巡り合ったそうですね。

はい、内山政照先生です。当時は農業総合研究所におられて、東京農大の講師

販売していませんでした。コープとうきょう、らでいっしゅぼーや、などです。東京に行き、らでいっしゅぼーやの後藤さんとよく飲んだものです。

そのうち、コープとうきょうの担当者が変わり苦労しているころ、秋田理事長から「(パルシステムの) 田崎さんと相談したらどうか」と言われました。コープとうきょうについて、幸吉さんから「(その) 生協は反対(側) だから」と言われていましたが、田崎さんと会うまでは意味がよく分かっていませんでした。現在はパルシステムが主な取引先です。

——久比岐の里を作ります。

冬場の仕事をする組織として、農事組合法人久比岐の里を作りました。私が35歳の時です。餅、ちまき、押しずしなどの加工をしています。久比岐の里の運営も安定してきたので、一緒にやってきた柳沢正さんの長男(柳沢嘉孝さん)に代表も譲りました。



有機栽培の田んぼ(コシヒカリ)の前で

——峯村農園について聞かせてください。

峯村農園は田んぼ27haで、別に作業受託が3haです。稲作経営規模は50haはやるように設備等は考えて作っています。これを私達夫婦と娘夫婦、それにシルバーさんが担っていました。今年度からは親戚の25歳の障がい者の若者を雇用しました。

農園の社長は息子(娘婿)峯村幸人さん)で、家族会議で決めるようにしています。雇用が段々厳しくなっていくのでスタッフのために休憩所も作りました。私の両親は60歳で農業をやめました。もう引退したらどうですかと言われますが私はやれるまでやろうと思っています。——奥さん、家族のことについて聞かせてください。

妻は、2歳下で、私の父が入院したときの看護婦でした。たまたま森山良子のコンサートに行ったら彼女が来ていました。私は、それまでに5〜6回失恋していましたので猛烈にアタックしました。2ヶ月で結納しました。27歳・25歳で結婚しました。最近妻に惚れ直しています。とにかく仕事ができる人です。

看護婦をしていましたが、久比岐の里を作るときにやめて、こちらの仕事に専念してもらいました。今ではうちの長女が主力になっています。子どもは娘2人で、長女があとをとって婿をもらいました。孫は娘2人で、1人は看護師、もう一人は大学の看護学科に行っています。——議員もされたそうですね。

頸城村の村議を、43歳から55歳までや

りました。引きこもりの就労支援にも取り組みました。引きこもりの人が久比岐の里で働くとうまく行くのですよ。行政の合併で議員を辞めました。村に堆肥センターができるときにBMW技術でやりたかったのですが、うまく行きませんでした。

——楽しい話は尽きませんが、これからやりたいことを聞かせてください。

昨年左足の手術、今年は右足の手術をしたので、いろいろ考えることがあります。

1つ目は、茨城BMを見たこともあって、自分流の堆肥を作りたいと思っています。それには生物活性水を活用する必要があります。ということ、昨年の5月初めに、自分用に生物活性水プラントを作りました。200ℓ×4槽で貯留槽は別に設置しています。これをモデル化して、いすれ堆肥センターの一部を借りて堆肥作りをしたいと思っています。

2つ目は、田んぼの除草を高齢者でもできる仕組みを作りたいと思っています。有機で田んぼを作るのに一番大変なのは除草です。高齢になっても田んぼが続けられるようにしたいと思っています。昨年からラジコン、今年はラジコン&チェーン除草を実践しています。

3つ目は、高田世界館(上越市にある老舗の映画館)で上越国際農業映画祭を継続してやりたいと思っています。上越映画鑑賞会の当初からの会員でした。映画の原作読んで、議論して、映画鑑賞をやってきたのですが、その映画鑑賞会が解散しました。でも何としても農業関

係の映画祭をやりたいと、「檻樓の旗」、「米」、「遠雷」、「花物語」、などの上映会をしました。この農業映画祭を続けたいと思っています。

4つ目は、上越市でもオーガニック給食を進めたいと思っています。オーガニックフェスタを3年取り組んできたのですが、やはり子供たちの給食を何とか有機でやりたいと思っています。地域循環の一つとしてです。

5つ目は、微生物に興味を持っている若手を育てたいと思っています。これからは若い人の時代です。その中でも微生物に興味を持った、それはBMW技術にも興味を持つということと同じですが、そのような若手を育てたいと思っています。農業を楽しく思える若者です。

——ありがとうございます。話の内容に圧倒されました。

※聞きなれない言葉、映画の題名が出てきますが、注釈を入れていません。是非ネットで検索してみてください。

◎聞き手 西日本BMW技術協会 宮崎利明



峯村農園の生物活性水プラント

事務局だより

BMW
技術協会
&
匠集団そら2025
9月・10月
SEP・OCT

【9月の活動】

- 2日 新潟県阿賀野市の夢の谷ファームにてプラントの補修作業
- 2日〜3日 北海道妹背牛町のファーマーズ・クラブ雪月花にてAQUA（BMWの人々）の取材
- 3日〜6日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてプラント設置工事（他日程も有）
- 5日〜10日 インドネシアのATINA社にてプラント点検
- 10日 埼玉県蕨市のパルスシステム埼玉・蕨センターにてプラント点検
- 17日 静岡県静岡市の清水養鶏場にて培養調整
- 17日〜19日 高県内にてプラント点検
- ◎夢産地とさやま開発公社（高知市）、高知県立高知農業高校（南国市）、大川村ふるさとむら公社（大川村）、四万十町・十和堆肥センター（四万十町）
- 18日 茨城県内のBMWプラント巡回、現地調査など
- 19日 第34回BMW技術全国交流会実行委員会と学習会を開催
- 22日 埼玉県深谷市の生活クラブたまご岡部農場と飯能市の飯能GPセンターにてプラント点検
- 24日 パルスシステム茨城栃木にてBMW技術学習会
- 26日 埼玉県さいたま市のパルスシステム連合会岩槻センター、白岡市のパルスシステム埼玉・白岡センターにてプラント点検

【10月の予定】

- 2日 茨城県つくば市の川田研究所を訪問
- 6日〜10日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてプラント設置工事
- 7日 静岡県静岡市の清水養鶏場にて培養調整
- 12日 大阪府大阪市で開催される、生活クラブ大阪の生協フェスティバルに参加
- 15日〜18日 ベトナム・ハノイ市郊外の養鶏場にてプラント設置工事
- 15日〜16日 北海道・根釧地区にてプラント点検（予定）
- 20日〜22日 大分県中津市の耶馬溪ファームにてプラント設置工事
- 26日 兵庫県神戸市で開催される、グリーンコープひょうご10周年祭に参加
- 27日 第34回BMW技術全国交流会実行委員会
- 28日 BMW技術協会常任理事会・匠集団そら取締役会

【事務局より】

先日行なわれた茨城県での岩石調査に参加しました。筑波山系の花崗岩（6千万年前）、その下には石灰岩や変成岩（1億年前）、そして14万年前からの富士山、浅間山の火山活動によって蓄積された関東ローム層。これらの岩石と火山灰など自然の営みの積み重ねがあり、茨城県は日本で3番目の農業生産高であることに驚きつつも納得しました。

◎BMW技術協会事務局 秋山澄兒

薬膳の話 144
〜 酢 〜

秋分を過ぎると、急に乾いた空気に変わり、鼻や喉、気管、肺に負担がかかるようになります。皮膚や粘膜も乾燥するので、皮膚炎、喘息、痔など悪化しやすくなります。唐辛子やコショウなどの刺激物を取りすぎると粘膜が刺激されるので注意しましょう。

身体が生水を吸収しやすくなる時期です。秋分から春分の半年間は水分を十分に取るようにします。水分が不足すると、こわばりやだるさ、脳梗塞や動脈硬化などが起きることがあります。

身体を潤す食材は、梨、パイナップル、ブドウ、蓮根、大根、豆乳、乳製品、白きくらげ、長芋、山芋、白菜、イチジク、松の実、米、ゴマ、はちみつなどです。

寝冷えから風邪をひきやすい時期なので、布団は早目に冬用に変えましょう。服は徐々に厚着にします。乾燥が気になる人は、加湿器を使い始めてください。

◎BMW技術協会事務局

佐々木エリカ
北京中医药大学日本校薬膳養成学科
卒業・中医薬膳士、総合漢方研究会
会員

酢の四気は「酸」、五味は「温」、帰経は「肝臓、胃」です。むくみを消し、皮膚病を治し、疲労を回復し、のぼせや胸苦しさを治します。酢の最大の効力は殺菌力です。たいていの病原菌は30分程漬けると死滅します。イワシやサバなど鮮度の落ちやすいものは、酢メにして殺菌した上で保存します。

酒や米などを発酵させて作る醸造酢と、化学的に作られた酢酸に水、アミノ酸、糖類などを加えた合成酢があります。醸造酢の方が効能や風味にすぐれています。



ホームページ



WEBショップ



FACEBOOK



Instagram

■BMW技術協会・匠集団そらのホームページとSNSを、是非一度ご覧下さい。
ホームページでは、BMW技術及びBMWプラントについて、BMW技術関連商品のWEBショップ、SNSでは日々の活動報告などを掲載しています。